

経済  
月報

# MONTHLY REPORT

2017

October

10

No.575

特集

東南アジア随一の多民族国家  
マレーシア

ビジネスインタビュー

材惣木材株式会社

# Malaysia

ビジネスインタビュー

元禄時代から木にこだわり 327年。  
自然のめぐみを、現代そして未来へ生かす。

# 材惣木材 株式会社



材惣木材の山林(三重県)



元禄時代に創業した材惣木材株式会社。長い歴史のなかに、山があり、谷があった。事業の歩みを振り返り、「常に変化する環境にいち早く対応し、舵を切ってきたことが長寿の秘訣ではないか」との思いを強くしている鈴木龍一郎社長に、材木屋惣兵衛にはじまる沿革や今後の展開などをお話いただいた。（上前津支店お取引先）

### 327年の歴史

御社の創業は元禄の頃とうかがっています。

創業は元禄3年（1690年）ということになっていますが、江戸時代のはじめ頃の記録に「材惣」という文字がみえますから、実際にはもっと前から事業を営んでいたと考えられます。当時は岐阜県中津川にあった苗木藩の領内で仕事をしていたようです。名古屋に初代惣兵衛がやって来たのが元禄13年。その前は知多半島の寺元村にいたことが、お寺の旧記などから判っています。以来、327年。この地で材木問屋を中心とした商売を営んできました。

社長さんは何代目ですか？  
十二代目です。

### 五代 材木屋惣兵衛



五代 材木屋惣兵衛

327年のうちには、いろいろなことがあったと思いますが、エポックメイキングになったような出来事を紹介していただけませんか？

江戸時代に著しい活躍したのは五代目の材木屋惣兵衛です。時代で言えば、文化文政年間（1804

～1830年）を挟んだあたり。文化2年（1805年）に東本願寺名古屋別院（東別院）の再建工事が行われたのですが、再建に必要な材木を五代目は一手に納品しています。必要な材木は、膨大な量だったはずで、その全部を任せられたのですから、相当に信頼されていたのではないかと思います。敏腕家、いわゆる「やり手」だったのでしょう。

その後、尾張藩の御勝手御用達に取り立てられ、名字帯刀を許されています。この時から材木屋惣兵衛は「鈴木惣兵衛」になりました。文政5年（1822年）です。この時期、家業は大いに盛り上がりました。

### 「中興の祖」 八代 鈴木惣兵衛

ほかには？

反対に家業が急速に衰えたのが、幕末から維新にかけてのことです。それが七代目にあたる才造の時代です。

版籍奉還や廃藩置県で、それま



八代 鈴木惣兵衛



代表取締役 **鈴木 龍一郎 氏**  
(十二代目 鈴木惣兵衛)



災保険（日新火災海上保険の前身）を設立して、その重役に就いていきますし、名古屋倉庫（現・東陽倉庫）の役員にも名を連ねています。

そのほか、名古屋商工会議所の会頭職や副会頭職を長く務めたほか、衆議院議員、多額納税貴族院議員、愛知県議会議員、名古屋市会議員など政治家としても大いに活躍したようです。大隈重信や福澤諭吉と面会したこともあったそうです。

八代目鈴木惣兵衛は、大正14年12月に70年の生涯を閉じるまでに18回も叙勲褒章を受けています。

八代目亡き後、昭和初頭から終戦までは、金融恐慌が起きたり、戦時色が濃くなり、木材業界も統制会社主導になったりして結構混乱した時代です。

### 環境変化のなかで

#### 戦後は？

住宅建築ブームが起き、材木商に追い風が吹きました。継続的に扱っていた電柱向け木材や枕木向け木材に、旺盛な住宅向け木材が加わって、大変な繁盛だったと聞

いています。

### 住宅ブームの時には輸入材も増えていたのでは？

外材（おもに丸太）が増えたのは昭和30〜40年代です。その頃から当社も輸入材の取扱を増やすようになって、国産材を上回るようになってきました。

国産材事業は、市場で山から伐り出した原木を製材業者などに販売したり、製材品を材木小売店に卸す形態。外材は、大手総合商社が丸太を輸入、それを当社のような「丸太問屋」が仕入れ、各地の製材工場や合板工場に卸すという形態です。

その頃は当社が事業の幅を広げつつあった時でもあって、当社自身も製材工場や合板工場を作って、製材品やベニヤ板の生産を行いました。

40〜50年代は、枕木や電柱がコンクリート製に切り替わった時期ですから、扱っていたのは住宅建築・建築向け木材の扱いが多くなってきました。

で上得意だった尾張藩が突然消滅してしまっただけです。当時、藩への債権も何万両とあったはずで、それも貸し倒れになってしまったのです。まさに危機的な状況だったと思います。

そういうなか、七代目は自分ではこの難局を乗り切れないと悟り、勤儉主義者の養子を取って、早々と家督を譲ることにしました。その養子が八代目です。八代目は針屋町の商家で酒造業を営む日比野家に生まれた茂三郎。明治7年に鈴木家の家督を相続。その後、八代目は惣兵衛を「惣兵衛」に改めています。

八代目惣兵衛は、材木商としての家業を立て直すために、徹底的に家財の整理を行うと同時に、みずから木曾の山中を踏査して、王滝村のヒノキの買い付けを行っています。そのため資金を松坂屋の伊藤家に借りたという記録も残っています。

買い付けた木材を八代目は、当時、全国的に急ピッチで進んでいた社会インフラ整備用の資材に向けます。具体的には枕木向けと電

柱向けですが、全国の鉄道会社や電力会社に材木を納めるには、徳川時代とは違って、競争入札を勝ち抜かなければならなかったようで、日記には「入札で負けた」などの記述も見られます。

惣兵衛は徐々に家運を盛り上げ、再び材木商としての基盤を作り上げました。材惣木材の中興の祖と呼ぶに相応しい人物で、材木商以外の事業にも関わったようです。

#### どういった事業に？

明治銀行、愛知時計電機、名古屋瓦斯（東邦ガスの前身）、福寿火



江戸時代に使用された帳面



木造軸組プレカット加工



2×4パネル加工



木造軸組プレカット加工



プレカット工場



西部総合事務所外観



西部総合事務所内観

**その後、オイルショックがありました。**  
 オイルショックで打撃を受けたのは合板工場と製材工場です。というのも、それまで原木（丸太）の状態でも輸入されていた外材が、ショック以降、製品の状態でも輸入されるようになってきたからです。つまり、ベニヤ板や製材品を海外の現地で作るようになったのです。この流れができてから、当社にかぎらず、国内の合板メーカーや製材業者が苦境に立たされたことはご存知の通りです。また、オイルショックを境に住宅着工戸数も伸び悩むようになって、木材を取り巻く環境が大きく変化したことも知られているところです。それ以降もバブル崩壊やリーマンショックといった環境の激変を経験しました。

**プレカット加工とツーバイフォー加工**  
**現在はどういう仕事がメインになっているのですか？**  
 在来木造軸組プレカット加工と、ツーバイフォー加工と、建材の納材です。売上ベースでみた場合、この三分の分野で70パーセントを占めています。  
 プレカット加工は、木材に大工さんが行うような継手・仕口を刻む機械加工。ツーバイフォー加工は、ツーバイフォー工法で使用するパネルの加工です。  
 元号が平成に変わる頃からハウスメーカーやパワービルダーで家を購入する人が増え、主にそのことによってプレカット材やツーバイフォーパネル材の需要が増加しました。



北海道上磯部木古内町太陽光発電所



本社ビル1階のエントランスに設置されたモニター。木古内と飛島村にある太陽光発電設備の現在の発電量がリアルタイムで分るようになっている。

しています。名古屋工場ではツーバイフォー加工も行なっていて、ドイツ製の最新鋭カット機によりCAD/CAMで材長カット、パ

ネル原寸大投影機（CAD図面がそのままプロジェクトによって作業台に原寸で映し出す装置）を使って組み立て加工をしています。

## 変化の兆しをキャッチ

ところで、御社の事業が300年以上も続いてきた最大の要因は何だと思いますか？

やはり、変化対応でしょう。いつの時代にも、経営環境は変化しています。その変化の兆しをすばやくキャッチして、適切に舵を切ってきたことに尽きるのではないのでしょうか。

従来どおりのことを漫然としていただけならば、ここまで続いていなかったかもしれません。

## 木の時代へ

今後はどのような展開をお考えですか？

材惣木材の今後については、300年以上にわたり、木にこだわってきた企業ですから、これからも木にこだわり続けたいと思っています。

ただ、このところ、木材の需要、とくに住宅用の需要が減退傾向にあります。ピーク時には年間190万戸以上あった住宅着工戸

数も90万戸台に減っています。少子高齢化で住宅着工数はさらに減少していくと予想されています。そういうなか、非住宅の木造建築向けを増やさなければならぬと考えています。保育園、葬儀場、クリニック、喫茶店、介護施設などの建物は、最近、木造で建築するケースが目につきます。

木造には温かさがあって、居心地もいい。学校や塾などの教育施設にも適していますし、木造の商業店舗は流行ると言われます。東京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場も木材をふんだんに取り入れたデザインが選ばれました。木は注目されている素材のひとつと言ってもいいぐらいです。

高度経済成長期以降の日本の建築は鉄骨や鉄筋コンクリートに頼りすぎていた面があるのではないのでしょうか。今、その揺り返しが来ているのかもしれない。高層建築を木造にするのは難しいのですが、中層以下の建築は、これから木の時代を迎える流れが始まっています。

## 材惣グループが提案する中大規模木造建築における代表的な工法

### ■ 木造ラーメン純工法

ヘッジ構法（ディーファクト）

### ■ 梁勝ちラーメン工法

ビッグフレーム構法（住友林業）



事務所に使用した木造プレカット構造材

### ■ 在来軸組+金物工法

テックワン（タツミ）

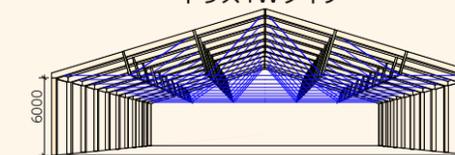
プレセッター（カネシン）

### ■ 2×4工法

### ■ ハイブリッドトラス工法

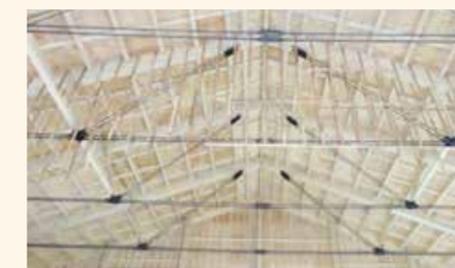
ATAハイブリッド構法

ハイブリッドトラス  
トラスTWタイプ



スパン22M~33M（一般流通材120\*450\*6000以内でできる大スパン）

自然素材である木の良さを活かし、木の弱いところを金属で補う。力学的に適った構造の組み方。



### 【グループ概要】

10月からの新体制

#### 材惣 DMB ホールディングス(株)

資本金：82,800千円

主な事業：グループ統括事業、不動産事業

#### 材惣木材(株)

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：木材加工・販売事業等

#### 大日本木材防腐(株)

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：木材加工・販売事業等

#### 東洋陸運(株)

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：運送・ロジスティクス事業等

#### (株)ザインハウス

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：木工事・住宅施工等

#### 伊藤建材工業(有)

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：サッシ施工・建材販売等

#### (株)濱木屋

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：不動産事業等

#### システム泰斗(有)

(材惣 DMB ホールディングス 100% 出資)

主な事業：システム開発等

グループ会社のひとつ、大日本木材防腐(株)が、かつて使用していた木材防腐処理装置の一部(釜の蓋の部分)。直径が約2メートルもある巨大なもの。

大日本木材防腐は木材の防腐処理(防腐木材の製造・販売)を業として大正10年に設立された会社で、現在は防腐処理に加えて、外材の輸入や木材保存(防腐工事)なども行っている。

今年3月末をもってMBOを実施、非上場に。グループを再編し、10月から材惣DMBホールディングスにする一環として行った。

## エノキアン協会へ加入

昨年、材惣木材はエノキアン協会への加入が承認された。エノキアン協会は家業歴200年以上の老舗企業のみで構成される国際組織。フランスのパリに本部があり、加入申請から承認まで半年から1年かかる。年に1度、会員企業の国で総会が開かれる。昨年はオランダのロッテルダム、今年はオーストリアのウィーン。



## エノキアン協会 (Les Heokien)

リキュールメーカーマリー・ブリザール社(仏)が提唱し、1981年に設立。

エノキアンとは、エノク(Henok)に住む人びとを意味する。エノクとは『旧約聖書』に記された人物で、世界初の都市の名前でもある。エノクは365歳まで生き、ノアの大洪水の前の家長として多くの子孫を残し、神とともに栄えたとされる。エノクには「始まり」という意味もある。

エノキアン協会は、現在、フランス・イタリアを中心に、ワイン、ガラス製品、宝飾品などの様々な分野の企業47社で構成されている。

日本企業は、法師、株式会社虎屋、月桂冠株式会社、岡谷鋼機株式会社、材惣木材株式会社、ヤマサ醤油株式会社、株式会社赤福、株式会社中川政七商店が加盟している。



エノキアン協会総会でのスピーチ(2016年6月 オランダ・ロッテルダムにて)

## — 材惣木材の沿革 —

**元禄3年** 初代惣兵衛が材木商を創業。

**元禄13年** 初代が知多郡寺本村より名古屋の元材木町に移り、材木屋惣兵衛と称して材木商を営む。

**享保元年** 尾張藩の材木屋十人衆の一人として、木曾ヒノキを中心に営業を行う。

**文化2年** 5代惣兵衛が東本願寺名古屋別院の建立用材納入のため、現在の名古屋市中川区に貯木場と木挽小屋を建設。

**文政5年** 10年余にわたる別院納材の大事業を達成し、藩政より御勝手御用達に取立てられ苗木帯刃を許される。

**明治21年** 8代鈴木惣兵衛が木曾王滝国有林材の伐出事業を始め、成功を収める。

**大正2年** 8代鈴木惣兵衛が名古屋商業会議所(現名古屋商工会議所)の7代会頭に選任される。

**大正10年** 材惣製作(資)設立。8代鈴木惣兵衛が社長に就任。日本舗装道路(株)(大日本木材防腐(株)の前身)が東京都に設立される。

**大正11年** 日本舗装道路(株)が名古屋市に移転、社名を大日本木材防腐(株)に変更。

**大正14年** 材惣製作(資)を材惣(資)に名称変更。

**昭和2年** 10代鈴木惣一郎が大日本木材防腐(株)の代表取締役に就任。

**昭和8年** 材惣製作(株)を設立。10代鈴木惣一郎が代表取締役に就任。

**昭和9年** 材惣木材(株)を設立。10代鈴木惣一郎が代表取締役に就任。材惣(資)を合併。

**昭和30年** (株)東海木材相互市場の設立に加わる。

**昭和47年** 名古屋港西部木材工業団地内に木工工場を新設。(株)東海木材相互市場内の東海建材(株)の株式を取得し、傍系会社とする。

**昭和50年** 西部木工工場(集成材工場)が造作用集成材のJAS認定工場の指定を受ける。

**昭和53年** 住宅建設の施工部門として(株)サイソウハウスを設立。製材工場を名古屋港西部木材工業団地内に移転。

**昭和58年** (有)函館材惣を設立。

**昭和62年** 旧本社ビルが完成。木造軸組建築プレカット事業を開始。

**昭和63年** 西部物流センターが完成。元禄屋書店オープン。

**平成元年** 西部外材センターがオープン。西部総合事務所完成。

**平成2年** 創業300年を迎え、各種記念事業を展開。羽柄材プレカットラインを新設。11代鈴木正治が黄綬褒章を受章。

**平成5年** プレカットラインを増設する。11代鈴木正治が全国木材組合連合会会長に就任。

**平成7年** 12代鈴木龍一郎が代表取締役社長に就任。11代鈴木正治が正五位勲三等瑞宝章を受章。

**平成9年** 元禄屋書店御器所店がオープン。

**平成12年** (有)函館材惣がプレカット事業を開始。

**平成13年** ISO9001:1994を取得。

**平成16年** (有)函館材惣を合併し函館事業所に。ツープイフォーパネル工場を新設。顕彰碑を西部総合事務所前東側に設立。

**平成21年** 名古屋城本丸御殿修元工事に携わる。東海建材(株)を合併し東海建材部に。

**平成22年** ISO9001:2008を取得。

**平成23年** 本社を名古屋市中区錦一丁目(旧木挽町)に移転し、社名を材惣から材惣に変更。旧本社ビル・元禄屋書店山王店敷地をニトリホールディングスに定期借地する。

**平成26年** 太陽光発電事業を開始。



2016年のエノキアン協会総会パーティ(オランダ ロッテルダムにて)



飛島村工場全景と太陽光パネル

### 材惣木材(株)会社概要

- 本 社／名古屋市中区錦1-1-2 ギャソウビル
- 創 業／1690年
- 資 本 金／8,280万円 ※グループ3億1,480万円
- 売 上 高／115億円 ※グループ約390億円(平成28年度実績)
- 従業員数／165名 ※グループ約700名
- 関連会社／大日本木材防腐株式会社 名古屋港区千鳥一丁目3番17号
- 東洋陸運株式会社 名古屋港区千鳥一丁目3番17号
- 株式会社ギャソウハウス 名古屋市熱田区花表町20番地17号
- 伊藤建材工業有限会社 名古屋市守山区川村町240番地
- 株式会社濱木屋 名古屋市中区正木3丁目2番82号
- システム泰斗有限会社 名古屋港区千鳥一丁目2番49号 DMB別館3F
- 有限会社鈴木興産 名古屋市中区錦一丁目1番2号
- 材惣エステート株式会社 名古屋市中区錦一丁目1番2号



### 材惣木材の業務内容

<p><b>2×4営業部 プレカット営業部</b></p> <p>材惣の主力となる木造軸組プレカット加工とツーバイフォー加工をした製品および住宅に関係のある商品の販売</p>	<p><b>建材営業部</b></p> <p>合板類や住宅機器、水廻り、内外装用木製品等の販売</p>
<p><b>木材営業部</b></p> <p>国産材の丸太および製品の販売や、外国産の現地挽製品の販売</p>	<p><b>函館事業所</b></p> <p>北海道を中心に自社で加工した木造軸組プレカット製品および住宅関連商品の販売</p>
<p><b>不動産管理部 不動産開発部</b></p> <p>材惣の所有する不動産や山林を中心に不動産等の管理・提案等</p>	<p><b>2×4工場 プレカット工場</b></p> <p>材惣の主力となる最新鋭の加工技術により、高品質の部材を生産供給</p>